

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「こころ」
(ユニット名)	1Fささやきの小径 2Fさえずりの小径
所在地 (県・市町村名)	守口市北斗町10番1号
記入者名 (管理者)	西 三友紀
記入日	平成 20 年 11 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念における入居者本位の介護サービスの提供と同時に地域との融合を図り、地域とのつながりを重視する理念を追加し、地域に根ざしたサービスの提供を重視してる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び管理者は、毎月スタッフ会議を開催し、理念を踏まえたサービス内容についての意見交換を行い、日常の仕事に活かせるよう取り組んでいる。また、スタッフ採用面接時には、理念をつたえ、理解を求めたうえ採用を行い、オリエンテーションを通じてその理解を深めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームへの掲示と家族会での説明と同時に地域代表者の会で理念の具体的な説明を行い地域との交流の場には、家族への参加を促し、その理解を深める機会を多く作っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩等の際には、スタッフを初め、入居者の方々自ら近隣の知人に、又、なじみの人々に声をかけ交流の機会を持つよう日々努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや催しに参加したり、ホーム主催のもちつき大会にも、企画・準備から住民の方々にも手伝って頂く等年々交流の場が増えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域代表者との会合の中で、我々が地域高齢者の方々に対して役立つことがあれば協力したい旨を申し出ており、今後防災も含め総合的に検討を行うことで合意している。餅つき大会等も合同で行い、地域の高齢者にも喜んで頂いている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者・幹部職員によって、自己評価を行い、全スタッフ会議の折にその内容について、スタッフの意見を聴き、自己評価としてまとめ、評価システムが運営に活かされる努力をしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地元自治会・老人会・防災・防犯の役員並びに家族会の代表学識経験者等の参加による会合を開き、介護サービスの実際を報告し、地域の皆さんの理解と今後のサービス向上に活かす意見具申を頂くよう働きかけている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険制度・サービス及びその他の社会福祉サービス等の諸問題等について、高齢者介護室、生活福祉課等の担当者と連絡を取り意見交換を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会の協力と指導をえて、該当入居者を成年後見人の選定を行い、そのノウハウは、理解できた。今年も同様の相談を受け、その支援は、入居者家族の理解は深まってきている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の権利保護を重視し、言葉の暴力等の虐待が生じないように管理者が主となり、スタッフ間でも言葉の暴力等の虐待がスタッフ会議の際にも共通理解を深めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約においては、具体的に説明を行い、質問には解りやすく、納得いただけるまで説明を行っている。特に契約解除においては、医療的観点を重視し、主治医・NSの意見を踏まえ、家族が当人の今後を想定し、より良い生活、療養状況を持って頂ける方策を共に考え、対話を重ねている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、利用者や家族と話す機会を持つよう心がけ、苦情と思われる事柄については、管理者を通じ、家族会・スタッフ会議において改善点を思案できるようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、介護記録をお見せし、利用者の近況を報告し、その他些細な異変のあるときなどには、速やかに各フロア担当者より電話による連絡を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個人個人の意見は出にくい状態であったので、家族会がその受け皿となって、意見集約出来る環境が整っている。運営者・管理者・家族会の代表者が集まって検討会を持っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的業務の中で、個人の考えを言える環境を作っている。スタッフミーティングを月1回開催し、職員が意見や提案を行い、その方策について話し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表は、予め利用者の状況を把握したシフトを作成しているが、イレギュラーの発生等、職員確保の必要な時は、職員の協力と理解の下で、ケアが行われている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各利用者において、それぞれ担当スタッフを決め、密な対話を持ち、信頼関係を深めることで、常時安心感へつなげられるよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常業務の中で、職員が経験を重ねながら技術・知識を学ぶ職場内教育(OJT)を採用し、また、より知識、技術を習得したいスタッフには、法人より助成金を出して、職員の育成に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>広域での同業者との交流がある。地域では、管理者・スタッフの知人を通じての交流にとどまっている。運営者・管理者は、地域での、より細やかなネットワークづくりに取り組む方法を模索している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みや、苦情の相談窓口として、担当者を定めその処理にあたっている。担当者は、必要に応じて、運営者に報告し改善を図っている。担当者と運営者はコミュニケーションを密にし、当人の負担軽減もはかっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、スタッフに任せるだけでなく、管理者と一体になって、運営状況を把握し、スタッフの仕事ぶり、勤務状況を把握し、モチベーションの向上に努めている。</p>	
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>s5</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接時には、本人同伴でご本人からも話を聴き本人の意向など確認するようにしている。又、本人の前で言いにくい事柄については、別に家族と話す場を用意している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居問い合わせ(TEL・訪問)時は、問い合わせに至った経緯を出来るだけ詳しく聴き、早急に対応するよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象でない方には、他の施設及び在宅サービスについての情報を紹介し、担当在宅ケアマネがいる場合には、連絡を取り情報交換を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居にて、施設の雰囲気に馴染み充分な理解と望みを必要とされて入居となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分で出来ることはして頂き、一緒に料理を作ったり、悩みを聞いたり、時には、職員が教わったり、そばで寄り添うことで支えあい、共感しあえるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況だけでなく、家族の状況も理解した上で、包括的に援助できるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来訪時には、本人も含めスタッフが仲介者となり会話をすることで、本人・家族間の関係が良くなるよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた馴染みの店等に行き物に行く。友人・知人の方にも気軽に遊びに来てもらえるようにしている。又、面会者は、家族にとどめず今までの友人も含め気楽に来訪してもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個人から悩み等聞いた際には、速やかに対応し、不都合な限り、同じフロアの入居者皆集まり話し合いの場を持っている。必要に応じて各ユニット間の交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中の方において、面会や連絡を取り家族を含め今後の生活についての不安を軽減できるよう配慮している。ホームを退所されてもその家族が来所されたり、交流は継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暫定・正式ケアプランとも、実際本人・家族に意向を聞きながら個別性のあるケアマネジメントができるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時、アセスメントシートに基づき、本人や家族から出来るだけ話を聞くようにしている。入居後も、折に触れ、情報を集めるように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	モニタリング・アセスメントを繰り返し、現状を把握すると同時に、主治医・NSによる医療的な意見も踏まえトータルケアサービスが実施できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時スタッフ間で、カンファレンスを行い又必要時には本人家族にも参加いただき可能な限り本人の意向に沿え、より良い生活を送られるよう考慮している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化を毎日記録し、見落としの無いよう確認しながら、状況の変化に応じて、随時見直しをしている。また、急激な変化があればその都度見直しを行っている。、		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者・夜勤者間で、密な申し送りを行い、入居者の状況把握に努め、介護計画の見直しに活かしている。また、申し送りノートを活用で、スタッフの周知徹底を計っている。医療的ケアにおいては、介護記録に添付し、経過がわかるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、かかりつけ医の受診送迎や同伴など家族の要望等相談をしながら行っている。また、早期退院の支援など、柔軟に、かつ速やかに行っている。		
.....				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	老人会・自治会に加入し、散歩や買い物時などを通じて、理解を深めていただくよう努めている。また、年1回の行政からの介護相談の場としてもホームを提供している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的にケアマネ連絡会に参加し、他事業所ケアマネとの意見・情報交換により、近隣のサービス事業者の特性等知ること、利用者に必要なサービスの提供へとつなげている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネ連絡会を通じて、地域包括支援センターとも情報収集・意見交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を踏まえ、契約医療機関の定期往診を受け、その他にかかりつけ医をもたれる方は、かかりつけ医との連絡を密にしながら、必要に応じて、心身の状態をより把握していただけるよう家族の受診への付き添いも依頼している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、常に心にとどめて対応している。介護記録については、固有名詞の記載は行わないで、当該本人・家族にのみ開示することになっている。また、個人情報保護の重要性を認識し、その徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個人個人にあわせ、禁忌である言葉や態度は全スタッフが周知しており、自己決定が行えるよう声かけを心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のペースを把握し、サービスの実行を図る前に、必ず本人の意思確認を行うよう徹底している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室や理容室に同伴し、又、希望した洋服店や化粧品店に付き添い、支援の必要ある利用者に対しては、アドバイスを行って、本人の希望が充足できるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・配膳・片付け等を利用者と職員と一緒に楽しくやっている。又、それぞれの利用者と調理を行う事で、食に対する好み・味付けを知るよう努めている。食事は、職員が入居者との間に入り、会話のある食事時間をとるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療上心身への影響がない限り、制限は行わないようにしている。又、家族の同意の下で、本人が好む嗜好品を本人が選べるよう買い物の付き添いも行い、楽しんでもらえるよう心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を用い、排泄パターンを把握し、できる限り自立していただけるようポータブルトイレ等の使用も適宜行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1Fでは、入浴を楽しめる雰囲気作りとして、ガラス越しに見える中庭を設置する等、工夫をこらしている。入浴日の目安は個人ごとに決めているが、本人の意向を重視した入浴支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各人ごとの睡眠状況を記録し、本人の希望、健康状態に合わせた休息・安眠の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々生活を送る上での習慣となる家事参加の促し、及び個人が好むレク活動を偏り無く行うよう考慮し、そのときの利用者の反応、言葉から気晴らしの程度を把握する。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が、お金を所持することを希望し、買い物を希望した時などは、同伴で買い物に出向き、買い物の楽しさと、その価値のわかる支援を行っている。家族の要望によりホームが管理するよう要請された場合は、ホームが管理し、本人の希望により買い物に同伴する。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝申し送りを受け、健康状態や、その日の利用者の希望を踏まえ、日勤リーダーがタイムスケジュールを組み立て、一人の利用者の外室支援に偏らないよう記録を参照しながら希望を満たすよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の趣味に合わせ、人形展や映画・外食等の支援をしている。また、家族の協力を得て、入居者の希望がかなえられるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、いつでもかけられるよう公衆電話を設置している。また、趣味を活かした暑中見舞いや年賀状等を出されるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会を通じ、家族・地域の友人たちが、気軽に訪問してもらえるよう声掛けを行い、施設の雰囲気も、玄関前に花を植える等工夫をこらしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営方針にうたい、家族・地域住民にも公表し、個人の尊厳を重視した介護に努め、職員には、周知徹底し、一人ひとり自由な生活が出来るケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに生活できる工夫として、入居者が、玄関に近寄ることでチャイムが鳴り、スタッフの気付きが容易に出来るよう取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由にリビングで過ごされているときは、少しはなれたところより見守り、また、居室におられるときは、必ずノックと声かけして、プライバシーと安全面に配慮した様子観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各勤務帯・定期的にフロア内を巡回しできる限り入居者の目線に立ち、危険なところは無いか環境整備に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	NSから指導を受け、一人ひとりの心身の状態、個性の把握、確認と気付きの大切さを理解し、事故防止に取り組んでいる。又、火災訓練の中でも学習している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを用意し、職員に配布している。また、心臓疾患の入居者のための対処方法を看護師より指導を受けている。又、スタッフ会議において、実際行った急変時に対しての適切な処置・対応を振り返っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者個人の身体・歩行状態を3段階に色分けし、災害時の非難手順を定めている。今年、マニュアルが災害時に活かされるか、災害時を想定した防災訓練を行い、日頃から災害時の対応方法を考える必要性を認識させている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク面についての理解と協力は、取り付けているが、リスクが生じたときには、家族の面会時及び電話にて家族に報告し、介護記録を開示し、その対応について話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は、看護師の指導をうけながら、より速やかで、正確な異変の発見に努めている。また、記録の記載と注意点の申し送りを行い情報の共有と対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・効用・副作用等について、一覧表を作成している。また、用量・用法は、個人個人の服薬ケースを用意して間違いの起きない服薬支援を行っている。新しい薬の投薬時は、その症状変化の確認作業をスタッフに義務付けしている。申し送りノート・医療的介護記録の活用にて全スタッフの認識が向上するよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的に水分補給を促し、散歩や体操等の軽い運動を積極的に行っている。また、入浴時は、腹部マッサージも行い予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必要に応じて、一部介助・見守りながら口腔ケアを行っている。また、毎週歯科往診を受け、より充実した口腔状態の把握に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、食材業者の栄養士にお願いしている。食事摂取量や水分補給量は、記録して健康管理に役立つ取り組みを行っている。食事摂取量が減退している入居者については、家族に速やかに報告し、本人の好む食べ物や栄養補助食品等で補う。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する知識は、講習会の受講等によって習得し、マニュアル作成によって対応している。また、インフルエンザ等は、契約医療機関の協力により予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作業終了ごとに洗浄と殺菌を行い衛生管理には最善の注意を払っている。新鮮と安全な食材仕入れは当然の事として使用しているが、3日間の毎食時の食材の一部を、万一のときの原因究明のために保管している。又、定期的に食品保管部分の整理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設と感じられる雰囲気はなくし、玄関入り口等に、どこの家庭にもある花壇や鉢植えを置き、親しみ感のある玄関を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fでは、中庭の見えるリビングに、囲炉裏を配置し、その中に昔の玩具を揃え、入居者に幼いころの思い出の場を演出している。浴室もガラス越しに見える中庭を作り、入浴が楽しめる工夫をこらしている。2Fでは、玄関入り口に坪庭を設置し、心の和む雰囲気作りに取り組んでいる。光や音は、状況により、調整できるようにしている。又、家族より、季節の草花の提供を受け、玄関やリビングに飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の場所、囲炉裏の場所等、思い思いの居場所の工夫をし、ちょっと離れた場所には、応接セットを用意し、一人になったり、気の合う者同士が静かに話し合える場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、グループホームの理解を得る説明で、使い慣れたものや、大切にしている物の持込を推奨している。持込む物は色々であるが、家族は、工夫を凝らして持ち込んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定時でリビング・居室の換気を行っており、外気温と室温の差を考慮し、利用者個人の体感温度にも注意を払いながら空調コントロールを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助具等の活用は、なるべく避け、自分の力で生活が送れるよう、工夫しているが、2Fは、入居者の身体機能を考え手すりを設置した。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	すぐに手を貸すのではなく、入居者個人の気付きの力を引き出せる言葉かけ、対応を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭での家庭菜園や玄関周囲の花の水やり等、入居者に行っていただくようレクの一環として取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)